

日中対照言語学会第45回大会（2021年度冬季大会）のご案内

記

日時：2021年12月19日（日）9：20～12：20

会場：オンライン会議

参加費：無料（会員、非会員共通）

プログラム

総合司会 下地 早智子（神戸市外国語大学）

大会開催挨拶 加藤晴子（東京外国語大学） 9：20－9：30

研究発表 1.

氏名：顧 彬楠（名古屋大学・大学院）

テーマ：“NP（対象）+VC+VP”構文の語用論的機能に関する一考察 9：30－10：05

研究発表 2.

氏名：許 賢科（名古屋大学・大学院）

テーマ：中国語の“晚V”と“V晚”の用法に関する考察—談話、文法および語彙の接点—

10：10－10：45

以上司会 劉 羸（九州大学）

休憩（15分間 10：45－11：00）

研究発表 3.

氏名：上田 貴恵（復旦大学・大学院）

テーマ：日中比較から見る中国語擬態語の特徴 11：00－11：35

研究発表 4.

氏名：劉 洪昊（京都外国語大学・大学院）

テーマ：日本語の「一字漢語+的」の使い方及び中国語訳の特徴の考察 11：40－12：15

以上司会 犬塚優司（島根県立大学）

閉会の辞 彭 飛（京都外国語大学） 12：15－12：20

閉会 12：20

（発表者の持ち時間は35分。それぞれの発表の間に、5分の準備時間を設けた。）

2021 年度冬季大会 発表者とテーマと要旨

研究発表 1.

氏名：顧彬楠（名古屋大学・大学院）

テーマ：“NP（対象）+VC+VP”構文の語用論的機能に関する一考察

要旨：“NP（対象）+VC+VP”構文は、“这辆车(NP)开起来(VC)很快(VP)”、“这头发(NP)摸上去(VC)软软的(VP)”、“健胃消食片(NP)吃完(VC)会饿(VP)”といった構文を指す。当該構文の特徴について見ると、「主語 NP は動作行為の対象である」、「主語 NP に後続する成分には動補構造 VC が多く用いられる」、「文の最後に置かれる VP は NP の属性に対する評価を表している」の三つが一般に挙げられる。先行研究において、VC は“V 起来”である場合（“V 起来”構文とも呼ばれる）が最も多く議論されている。また、語用論の観点から“V 起来”構文を主題文と扱う研究が少なくないものの、“V 起来”に関しては、「二重主題文（“双重话题套合结构”）において小主題に当てられる」、「主題マーカ―」、「評注性副詞」などの指摘が見られるように、“V 起来”の機能についてばらつきが見られる。本発表は、“V 起来”だけではなく、冒頭のような例も含めた“NP（対象）+VC+VP”構文を考察の対象とする。まず語用論の観点から NP を主題とみなす理由を述べる。次に、VC は当該構文においてどのような機能を果たしているのかを解明する。最後に、“NP（対象）+VC+VP”構文はどのような場面に用いられ、またどのような伝達効果をもたらすかという問題について考察を試みる。

研究発表 2.

氏名：許 賢科（名古屋大学・大学院）

メールアドレス：許賢科

テーマ：中国語の“晚 V”と“V 晚”の用法に関する考察—談話、文法および語彙の接点—
要 旨：

単音節形容詞が用いられた状語と結果補語の用法については、従来、“小王多喝了点儿酒。”と“小王喝多了点儿酒。”および“我明天晚来几分钟。”と“对不起，我来晚了。”の下線部に見られる語順をとる動機づけとして、動作主の“有意”と“无意”の対立で解釈されるのが一般的である。すなわち、状語の場合（AV 構造）は動作主による意図的な行為が表されるのに対し、補語の場合（VA 構造）は動作主の非意図的な行為が表されるというものである。しかし、“如果你们晚来一分钟，罪犯就跑了。”、“晚来的客人，只得借宿草原牧家。”のような AV 構造でも意図的とは言えないものがコーパスでは散見される。また、談話分析のアプローチから、郭晓麟 2010 は“多吃”と“吃多”の実例調査に基づいて、AV 構造の多くが前景情報、VA 構造の多くが背景情報を示すという機能的分布の相違を指摘している。本発表では、コーパスを利用し、“晚 V”と“V 晚”の談話機能上の分布が必

ずしも郭晓麟 2010 の指摘と一致しないことを述べる。そのうえで、両者の相違を生み出す統語的、意味的、語彙的な要因の解明を試みる。

研究発表 3.

氏名：上田貴恵（復旦大学・大学院）

テーマ：日中比較から見る中国語擬態語の特徴

要旨：

本稿では中国語の擬態語について考察を行う。オノマトペは擬音語と擬態語を包括して使用される語であり、中国語ではこれに対応する語として“象声語”がある。しかし、象声語は一般的に音に重きを置いており、擬態語を含まないことが多い。よって中国語では擬態語が文法的な概念として存在しないとの見方が多く見られる。実際、中国語の象声語に関する研究では擬態語への言及はほとんど見られない。耿二岭(1986)や李镜儿(2007)のように擬態語の存在を認めている考えもあるが、いずれも詳しく取り上げられてはおらず、研究対象からは外されることが多い。

中国語単体で見た場合には擬態語の存在は希薄であるが、日本語との対象又は日本語的視点から見た時、呉川(2005)、香坂(1983)、野口(1995)等が指摘するように中国語にも擬音語から擬態語へ転化した語や ABB 型形容詞のような擬態語的な語の存在が確認できる。しかし、日中対象オノマトペの先行研究においての研究対象の多くが日本の作品であり、対訳で現れる中国語に注目しているため、これら擬態語的用法の中国語における立ち位置は曖昧である。本稿では、魯迅、余華、残雪、莫言等の中短篇小説での実際の使用例と、それに対応する日本語訳から、中国語の擬態語の有無について考察する。そして、日本語との比較を通して中国語で擬態語が少ないと言われる理由に迫る。

研究発表 4.

氏名：劉 洪昊（京都外国語大学・大学院）

テーマ：日本語の「一字漢語+的」の用い方及び中国語訳の特徴の考察

要旨：

本論文は日本語の「一字漢語+的」の用い方及び中国語訳の特徴について考察する。日本語において、「一字漢語+的」が特殊な存在であり、中国語では見られない表現である。

(1) 彼は知的な顔をしている。(他看起来很聪明。)

(2) 法的措置が行われる。(将实行法律措施。)

日本語では「一字漢語+的」が用いられているが、中国語では一文字だけで表せないものが多く存在している。

(3) 公的なものを自分のものにしてはいけない。(公家的东西不能占为己有。)

(4) この問題は公的に表明された。(这个问题被公开表明了。)

また、同じ「公的」にもかかわらず、指していることが異なる。(3) の「公的」では私

的ではないことを表しているのに対し、(4)の「公的」では公開することである。中国語の視点から考えれば、日本語の一字漢語は意味がはっきりしないものが多い。しかもその意味は必ずしも一つの意味しか持たないとは限らない。本研究では、こういった中国語には見られない、日本語特有の「一字漢語+的」に注目し、それらの語の使い方の特徴及び中国語訳の特徴について考察する。また意味的ズレのある日中漢字同形語についても考察する。